



6075 能登半島地震被災集落・道下における空地発生メカニズムと空地の管理・活用：「能登半島地震被災3年半復興奮闘の集い(2010年10月)」を事例として(震災からの集落再生, 農村計画)

川口, 麻子 ; 山崎, 寿一 ; 金, 斗煥 ; 山口, 秀文 ; 白浜, 晋平 ; 久保, 佳与子

(Citation)

学術講演梗概集. E-2, 建築計画II, 住居・住宅地, 農村計画, 教育, 2011:547-548

(Issue Date)

2011-07-20

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(Rights)

本文データは学協会の許諾に基づきCiNiiから複製したものである

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90003067>



能登半島地震被災集落・道下における空地発生メカニズムと空地の管理・活用

- 「能登半島地震 被災 3 年半復興音楽の集い (2010 年 10 月)」を事例として -

能登半島地震
空地活用

非現住世帯
交流

空地発生

正会員
同
同
同
同
同

〇川口 麻子*
山崎 寿一**
金 斗煥***
山口 秀文****
白浜 晋平*
久保 佳与子*

1. 研究の背景と目的

2007 年 3 月に発生した能登半島地震の最大の被災集落である輪島市門前町諸岡地区道下 (以下、「道下」という。) では、非現住世帯^{注1)}の空家が倒壊して生じた空地の管理・活用が、まちづくりにおける大きな課題となっている。2010 年 10 月 11 日に道下の非現住者の所有する空地で、「能登半島地震 被災 3 年半復興音楽の集い」というコンサートが行われた。

本稿では、道下における空家・空地が発生するメカニズムを整理し、コンサートの実態とその役割を明らかにする。

2. 道下における空家・空地発生メカニズムと管理問題

道下では、以下のようなプロセスで空家・空地が発生したと考えられる。

親子で道下に居住しており、農地と墓も所有している状態 (図 1-①) から、子供が成長し、都市で生活するようになる (②)。その後、子供が結婚し、拠点が道下と都市の 2 か所になる (③)。親が年をとり、冬の間や、病気の場合に、子世帯のところへ行くようになる (④)。親が死去すると道下の家は空家となり (⑤)、その後、仏壇を子世帯の住宅へ移す (⑥)。この⑤、⑥の状態で能登半島地震が発生した。震災によって倒壊した道下の住宅を撤去し、空地になる (⑦)。

①～④は現住世帯、⑤～⑦は非現住世帯が所有している状態である。非現住世帯が所有する空地 (⑦の状態) をどのように管理・活用していくかが、道下のまちづくりの課題となっている。

3. コンサートが開催された空地 (Y 邸跡地) の発生プロセスと管理・活用

Y 邸跡地は本町通り (西町) に面する土地で、震災の数年前に先代が死亡し、その後、金沢に居住する孫が住宅、屋敷地を

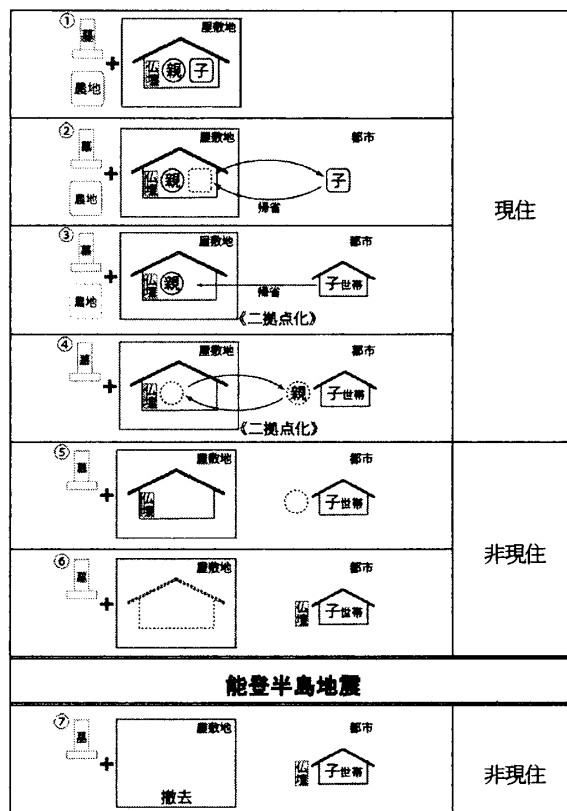


図 1 道下における空家・空地発生メカニズム

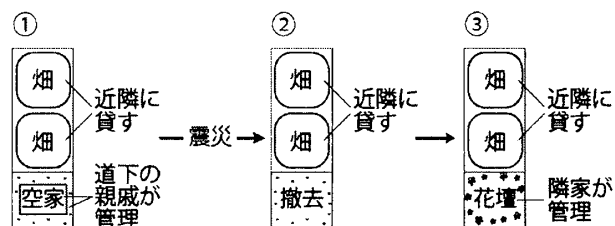


図 2 Y 邸跡地の管理の変遷 (模式図)

相続した。相続後、屋敷は道下に居住する親戚が管理し、隣接する畑は近隣に貸していた (図 2-①)。震災により住宅は全壊

し、撤去したため空地となった(②)。その後、屋敷地を管理していた親戚を通じて、隣家に管理を依頼することになり、現在、花壇として利用されている(③)。

この空地でコンサートを行った Y さんは、屋敷地の所有者(非現住者)の母親であり、宝塚出身である。現在は金沢に居住している。

4. コンサートの実態

4-1 コンサート開催の経緯

隣家が空地を花壇としてきれいに管理しているのを見た Y さんが、道下の住民らのために何かをしたいと考え、空地を管理している隣家に相談し、コンサートを開くことになった。

管理者はより多くの住民に参加してほしいと考え、道下・勝田住まい・まちづくり協議会(以下、「まちづくり協議会」という。)の会長(道下区長)と公民館館長にも協力を依頼した。

4-2 コンサートの参加者・支援実態

コンサートには道下内外から約 300 人の人々が来場し、そして、多くの人々が運営に携わった。会場近くの空地を駐車場として利用するなど、空地の活用範囲にも広がりがあった(図 3)。

図 4 はコンサートの支援主体の相関図である。図 4 より、主催は Y さんであるが、管理者夫妻とつながりのある人や、まちづくり協議会、来場者など、道下内の人々が多く支援し、関わっていて、さらに教育委員会や交通推進委員隊といったような、輪島市の組織も携わるなど、大きな広がりを持っていたことがわかる。



図 3 コンサートの様子

4-3 コンサート開催後の住民らの行動

コンサートを開催した後日、管理者のもとへ直接来たり、道で会ったりして、コンサートの感想を述べた道下の住民が約 100 人にも及んだ。住民らはそれぞれ、「楽しかった。」「良かった。」という感想を伝えたとのことだった。

さらに、コンサート時に古いベンチが置いてあるのを見て、

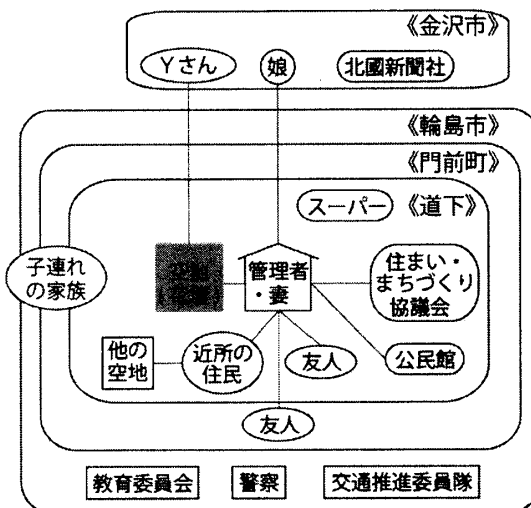


図 4 支援主体の相関図

翌日に新しいベンチを管理者のもとへ持ってきた住民もいたそう。

5. まとめ

道下において空地が発生するのは、非現住世帯の所有する空家が震災により倒壊し、撤去され、その後再建されない場合が多いからである。

その一事例である Y 邸跡地の場合、管理が親戚を通じて隣家へと委託されたという経緯により、非現住者と管理者の交流が続いており、今回のコンサートの開催につながったと考えられる。さらに、今回のコンサートは非現住者と集落に現住している住民が交流する場となり、空地の管理・活用について多くの人々が意識するきっかけになったと言えるだろう。

謝辞 調査にあたり、道下の住民の方々に多大なるご協力をいただいた。また、本論文は、財団法人住宅総合研究財団 2010 年度研究助成「能登半島地震・被災集落における住宅復興の生活文化論的検証(No.1005、研究主査：山崎寿一)」の一部である。記して謝意を表す。

注釈 注 1) 道下では、住民を「現住」、「非現住」に分類している。非現住世帯は、道下に家または土地を所有し、道下の町内会の区費を支払っているものである。

参考文献 山崎寿一：能登半島地震被災集落・道下における通世代定住と非現住世帯の空地問題—『昭和絵図』以降の居住動向と集落変容に着目して—、日本建築学会計画系論文集 75(657), pp.2599~2605, 2010.11

* 神戸大学大学院 博士課程前期
** 神戸大学大学院 教授・工博
*** 神戸大学大学院 博士課程後期
**** 神戸大学大学院 助教・工博

* Graduate School of Kobe University
** Prof., Kobe University, Dr. Eng.
*** Graduate School of Kobe University
**** A Prof., Kobe University, Dr. Eng.